

飛島村総合教育会議

議事録

令和4年度第1回

令和5年1月24日開催

飛島村教育委員会

令和4年度第1回飛島村総合教育会議 議事録（要旨）

《招集年月日》 令和5年1月24日（火）

《招集の場所》 飛島村役場 3階 第1委員会室

《開 会 》 午後3時00分

《閉 会 》 午後4時25分

《構 成 員》	村 長	加 藤 光 彦
	教 育 長	萩 野 登記代
	教育長職務代理者	服 部 泰 憲
	委 員	太 田 園 絵

《出席した職員》

副村長	佐 野 徹
総務部長	加 藤 義 彦
開発部長	福 谷 晶
会計管理者	中 野 晃
総務課長	鷲 尾 成 二
教育部長兼教育課長	奥 村 義 明
教育部次長	河 村 幸 恵
生涯教育課長	加 藤 悦 久
教育課主幹	福 田 誠
教育課係長	伊 藤 幸 丈

《欠 席 者》	委 員	多 田 裕 美
	民生部長	中 島 利 文
	企画課長	早 川 宗 徳

《傍 聴 者》 なし

《 資 料 》	飛島村教育大綱（案）	資料1
	I C T教育について	資料2
	英語教育について	資料3
	登校に困難さを抱えている生徒の現状と対応について	資料4
	※非公開資料	

《会議内容及び経過》

別紙のとおり

別紙

《会議内容及び経過》

開 会

＜事務局（教育部長兼教育課長）＞

定刻となりましたので、只今より、飛島村総合教育会議を開催させていただきます。本日の資料は、事前に送付させていただきました資料と、本日、机上に配付させていただきました資料4となります。また、資料4は個人情報保護のため、会議終了後回収させていただきます。教育委員の皆様方におかれましては、引き続きの会議となりますが、よろしくお願いいたします。また、名簿にございます多田教育委員、中島民生部長、早川企画課長におかれましては、欠席の連絡をいただいておりますので、ご報告をさせていただきます。この会議は、飛島村総合教育会議設置要綱第6条の規定により、公開となります。また、会議の議事録を作成した上で、ホームページで公表させていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは、開会にあたり、村長からご挨拶を申し上げます。

1 村長あいさつ

皆さんこんにちは。お忙しい中、飛島村総合教育会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症も、依然として続いています。ここに来てインフルエンザが流行してきたということで、1クラスが学級閉鎖になっています。飛島学園もこうした状況にあります。そうした中、皆様方に協議事項の2（1）で飛島村教育大綱の見直しについて、ご協議をいただくことになっております。私も、事前に資料を読ませていただきました。非常に曖昧な表現が少なくなり、より具体的な内容になっていると感じております。この4月からの5年間の教育大綱ということでございますので、十分にご協議いただきまして、これからこの大綱に基づいて教育が進んでいき、飛島村の子ども達にとって、よりよい教育がなされることを願って、私の挨拶とさせていただきます。

＜事務局（教育部長兼課長）＞

ありがとうございました。

それでは、ここからの進行は、この会の議長であります村長にお願いしたいと思います。

＜議長（村長）＞

2（1）飛島村教育大綱の見直しについてですが、第5次飛島村総合計画の策定に合わせまして、私の方から教育大綱の見直しを指示しました。ご説明をお願いします。

2 協議事項

（1）飛島村教育大綱の見直しについて

・飛島村教育大綱（案）【資料1】

＜教育部長兼教育課長＞説明

<議長（村長）>

ただいまの説明について、ご意見ご質問はありませんか。

<服部教育委員>

3ページの②のところに、プログラミング的思考の育成と書いてあり、下の方に説明は書いてあるのですが、よく分からないので、実際にどのような授業をしてプログラミング的思考を伸ばしていくのか教えてください。

<事務局（教育課主幹）>

プログラミング的思考は、実際にパソコンにプログラムを打ち込んで、何かを動作させるというわけではございません。その手順を論理的に組立てながら、試行することで、解決に至るという思考力を養うための授業になります。例えば、算数の授業の中で、いろいろな形を勉強するところを想像していただいて、例えば門が4つあり線が4本ある形は、何ですかというとその門が4つ、線が4つということで、四角形だなというふうに導いていく、そういう思考力を学習してプログラミング的思考を養っています。また、後期課程の技術の授業の中では、実際にプログラムを組んで動作させるという学習も入ってきます。来年度には、実際にプログラミングを体験させていただいて、推進させていただきたいと考えています。

<服部教育委員>

例えば、教科の中でプログラミング的思考をしましょうということがありますよね。そういう授業を利用して伸ばしていくということですね。

<事務局（教育課主幹）>

例えば将棋も、このプログラミング的思考になります。子ども達は、そのタブレットの中にあるアプリケーションを使って、指示を出して、キャラクターを動かすことで遊んだりもしています。そういうところで、順を追って考えるという思考が、プログラミング的思考につながっていくということです。

<服部教育委員>

自分の教員の終わり頃には、結構、そういうものが入ってきて、先生方がやっていました。実際には、子ども達がどれぐらい分かっているかは分かりません。クラスの半分ぐらいは分かって、そういうプログラムを買ってコンピューターを使って学んでいました。

<太田教育委員>

3ページの③の誰1人取り残さない教育環境についてですが、それはとても大切なことだと思います。義務教育学校になって小学校、中学校の先生全員で、子ども達を見ていただくことや、スクールカウンセラーさんがいることによって、心ない言葉や態度で傷付いた子ども達の心のケアや、子供が出すSOSを見落とさないように支えていただきた

たいなと思います。ＱＵアンケートや生活アンケートは、年に何回行われているのか教えていただけますか。

<事務局（教育部長兼教育課長）>

ＱＵアンケートにつきましては、年２回行っています。１回目は４月から６月、２回目は１１月に行いまして、生徒の変容を見ます。生活アンケートにつきましても、６月と１１月の２度実施をしています。生活アンケートでは、主にいじめや個人の悩みなどについて、答えるもので、そのアンケートをもとに担任が面談を行っています。

<服部教育委員>

〇〇〇科という言葉が出ていますが、新しい教科ですか。

<事務局（教育次長）>

これは教科ではなくて、総合的な学習の時間を中心として、生活が１年の生活科で、それから全ての学年にある特別活動、道徳、あとは英語学習といった関連する内容をまとめた特別な教育課程の編成ということになります。具体的には、飛島村に愛着を持った子を育成する「ふるさと教育」、未来をたくましく生きていくことのできる「キャリア教育」、そして、飛島村の土地柄を踏まえて、災害から互いの命を守るといった「防災教育」、こういったところを軸として、１年生から９年生まで９年間を見通した学びとしてつながっていくように、現在、学園と作成計画の準備を進めています。

<服部教育委員>

４ページの⑥ですけれども、郷土に誇りを持つ人材の育成というところで、２行目に村の取組へ自発的に働きかけることのできる子ども達を育てますとありますが、これについては、子ども達が自発的に働きかける事ができる場を、村としても準備していただいていたかないと、なかなか子ども達には難しいと思います。今回のイルミネーションのトビシマライツ、文化祭、赤ちゃんなどの子どもの支援で学園の生徒が面倒を見るとか、学園の子ども達をいかに使えるかということを考えながら、いろんな行事を見ていただけると良いと思います。子どもが、活動できる場を作っていただければ、やる気のある子が出てくるし、是非、村の方でも取り組んでいただけるとありがたいなということを思いました。

<議長（村長）>

私から１点確認したいのですが、この〇〇〇科は、いつまでに決められるのですか。

<事務局（教育次長）>

本年度のところで、まず名前を決めます。今、学園とカリキュラムを作成していますが、同時進行で学園の先生方にも、子どもが飛びつきたくするような、今の内容にふさわしいような名前を、今考えています。〇〇〇科の部分は、本年度中に確定をしていきたいと思っています。それから、中身のカリキュラムについても、本年度のところで、取りあえず

先生方と形を作って大切なものですので、来年度の1年間をかけて、それを軌道修正しながら、予定としては令和6年のところで、正式にスタート出来たらというスケジュール感で今、学園の方と進めています。

<議長（村長）>

再来年ってことですか。

<事務局（教育次長）>

試行ということで来年4月からやっていきますが、その中で軌道修正をして整えていくということです。今年度中には、名前は付けます。形もある程度、本年度中に形づくり、この4月からは、試しながら進んでいくということになります。

<議長（村長）>

あと1点、SDGsという言葉が入っていませんが、これは〇〇〇科の中に入れ込むってことでしょうか。

<事務局（教育次長）>

各学年の関係するところに入ってくるということになります。今、学園の方でも総合学習で取り組んでいますので、そういった要素も見直しながらということになります。

<議長（村長）>

忌憚のないご意見ありがとうございました。今後は、私の方に一任させていただき、頂戴したご意見をもとに、再度見直しを行い、策定するという方向で進めさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次に（2）ICT教育について、資料2の説明をお願いします。

（2）ICT教育について

・ICT教育について【資料2】

<教育課主幹>説明

<議長（村長）>

ただいまの説明について、ご意見ご質問はありませんか。

<服部教育委員>

QRコードでログインという話がありましたが、自分が教員の時は、パスワードを入れてやっていて、よく分かっていないのですが、タブレットの安全管理について、例えば、そのQRコードはどういうふうに、子ども達が持っていて、学校ではどうやって保存しているのか。また、安全管理について、お教えてください。

<事務局（教育課主幹）>

タブレットの安全管理につきましては、まず本体の保管は、タブレット保管庫が学園にあります。そこに、必ず生徒が戻すということになっています。QRコードの管理については、生徒の名札の裏面に入っています。また、名札については、防犯上、学校から持って帰らないことになっています。基本的に朝に登校したら、それぞれのクラスで決まった場所に名札が置いています。帰るときには、外して帰るということになります。そのため、QRコードが外に持ち出されることはありません。特にQRコードの関係で大きな問題が発生したということは、聞いていません。

<太田教育委員>

タブレットの持ち帰りを進めていかれるということですが、普段から持ち帰るということなので、いつぐらいからそれは始められるのでしょうか。

<事務局（教育課主幹）>

学園と調整しながら進めていくのですが、イメージとしては、ゴールデンウィーク明けぐらいから中高等部の5年生以上を、2学期からは1年生から4年生という形で進めていければという予定です。

<太田教育委員>

毎日なのか、週のうちの何回なのか、いかがでしょうか。

<事務局（教育課主幹）>

学習の状況とか、必要に応じてと思っています。毎日になるかについては、今後、学園と十分に相談して決めていきたいと思います。

<服部教育委員>

タブレットをこれから毎日持ち帰るというような話になれば、それだけ重くなって、1年生は大変だと思います。学習道具を減らすとか、タブレットの毎日の持ち帰りを踏まえて対応していただけると良いと思います。学校訪問で見せていただきました授業などで、子ども達は、確かに慣れているということをすごく感じました。ただ、すぐ分かる先生もいれば、自分のようにタブレットを全然使っていない方もいるので、先生達は大変だなと思いながら見ていました。苦手な先生達は、やっぱり皆さん苦手だと思いますので、そういうときに年配の先生達は、若い先生達やコンピューターの支援員の方が、やっぱり頼りになります。そういう場合に支援員さんがいてくれたら良いという考えでしょうか。

<事務局（教育課主幹）>

ICT支援員は、週2回、常駐していますので、必要に応じて学園の先生方は頼っています。また、オンライン交流、オンライン学習のときのフォローに入っていたりしています。服部教育委員がおっしゃったように、どうしても不安に思ったり、あとはハー

ド面のトラブルなどの自分達ではどうしようもできないトラブルが起きたときに、直していただけることは、大変助かっています。この前も、韓国領事館とのオンライン交流があった際も、事前の接続テストのところで I C T 支援員さんに入っていただき、時間も短くトラブルの原因とかを教えていただき、アドバイスをいただけるものですから、非常に助かっています。また、学園の先生方にも本当に力になっていただいております。

<服部教育委員>

慣れることは、先生方も大変ですので、タブレットを使わなくても十分できるときには、タブレットを使わずやっていくということを、考えていただけるとありがたいなと思いました。

<太田教育委員>

I C T 教育についてですが、今、娘がいるのですが、少し娘の話をさせていただきます。高校生の娘が、パワーポイントを使って資料を作ったり、用意して授業に向かっているのですが、ほとんどの同級生がパワーポイントを使いこなせないそうです。娘は、やっぱり中学生のときにパワーポイントを使って発表していた経験がすごく役に立っていることが、ありがたいと思っています。娘から話を聞いたので、ちょっとここでお伝えしたいと思って報告をさせていただきました。これからも、是非、続けていただけたらと思い、報告させていただきました。

<議長（村長）>

それでは、事務局の説明のように I C T 教育の充実及びタブレットの活用等を前進していきますので、よろしくお願いいたします。次に（３）英語教育について、資料３の説明をお願いします。

（３）英語教育について

・英語教育について【資料３】

<教育課主幹>説明

<議長（村長）>

ただいまの説明について、ご意見ご質問がありましたらお願いします。

<服部教育委員>

英検の話がありましたが、８年生で英検はどのくらいの子が受けているのかと、小学校の英検ジュニアとはどんなことですか。英検のレベルが高い子は多いのか、又は普通なのか教えていただきたい。

<事務局（教育課主幹）>

今年度は、受験者が 20 名ですので、学年の半分程度の子が受験をします。結果は、公開

されていないのですが、一応、昨年度の実績は結構な生徒さんが一次試験を合格されたということを聞いています。それを考えますと、本来英検3級というのは中学校3年生レベルの子が受験するものを、飛島村の子が8年生で受験しています。また、準2級に至っては、高校2年生レベルを中学校2年生で受けるということになります。公立の1つの学校としては、非常に力を入れているところが、すごくよく分かります。今回も、多くの希望者がありまして英語教室も開催させていただきましたが、初日から、生徒が勉強に来てくれました。英検ジュニアにつきましては、3グレードがありまして学園に確認しましたところ、5年生でブロンズ、6年生でシルバーを今年は受験したということです。難しいのにトライするよりも、できる自信をつけさせる感じで、グレードはちょっと低い感じがしますが、様子を見ていきたいと思います。結果は、まだ出てないのですが、非常に先生達も楽しみにしています。

<太田教育委員>

オンライン英会話についてですが、次年度から取り組まれるということですが、もう少し詳しく教えていただきたいと思います。

<事務局（教育課主幹）>

今回は、デモということで取り組みました。フィリピンにいる外国人講師さんと画面越しにマンツーマンでつながり、ヘッドセットを介してレッスンを受ける学習です。外国人講師からの指示は、全て英語でしたので、子ども達も一生懸命に聞きながら英語で答えていました。外国人講師が、当たっていたら丸って書いてくださり、間違っていると言葉で教えてくれたり、書いてくれたりして、そういう形で学習をしていました。時間については、20分ちょっとでしたが、本当にあっという間に過ぎていく感じで、たくさんの学園の先生方にも見ていただきました。子ども達にも、大変好評だったと思います。来年度は、5・6年生とそれから後期課程の子達に向けて実施することを考えています。この事業が、海外派遣の実際の中で生きると良いなと考えて取組を進めていきたいと思っています。

<太田教育委員>

オンライン英会話は、英語の授業の時間を使うのか、それとも別の時間でやられるのかちょっと教えていただきたいと思います。

<事務局（教育課主幹）>

時間については、学園と調整させていただきながら決めていきます。後期課程につきましては、基本的に英語の時間、前期課程につきましても外国語の時間がありますので、こちらで実施できればと考えています。

<服部教育委員>

体育館でバドミントンをやっていますが、その時に中学生が会話をしている場面がありました。結果などの話を聞いていて、能力のある子はすごく伸びていける環境だなという

ようなことをすごく思いました。ただ、苦手な子もいますので、先ほど話があったように、学校で子ども達が、英語が嫌いにならないように楽しくやっていると良いと思います。9年間続けていくので、楽しい英語をやれる人に指導をお願いしたいと思いました。できる子は伸びていく環境があるので、そういう特色のある教育をしていただけるとありがたいと思います。

<議長（村長）>

事務局の説明にありましたとおり、英語教育の推進についてよろしく願いいたします。次に（４）登校に困難さを抱えている生徒の現状と対応についてですが、ここで委員の皆さんにお諮りします。この案件は、個人情報を含み、公開することが適切でない内容を含んでいます。飛島村総合教育会議設置要綱第6条の規定に基づき、秘密会での協議したいと思います。秘密会で協議することとしてよろしいでしょうか。

— 構成員 承認 —

<議長（村長）>

それでは、秘密会とすることにします。傍聴人が見えませんので、このまま続けさせていただきます。

（４）登校に困難さを抱えている生徒の現状と対応について

・登校に困難さを抱えている生徒の現状と対応について【資料４】

<教育次長>説明

※秘密会にて実施

<議長（村長）>

（５）その他について委員の皆様方から、この会議で協議すべき案件がありましたら、ここで発言をお願いします。

— 発言なし —

<議長（村長）>

それでは、３の報告連絡事項に移ります。村長部局より村の取組等について連絡等がありますか。

３．連絡報告事項

（１）村長部局より

<総務部長>

総務部からは、１点ご報告をさせていただきたいと思います。この３月に、とびしマル

シェの開催をさせていただきたいと考えております。3月19日の日曜日の開催ということで、時間につきましては、午前10時から午後2時までの間となります。前回と若干違うところは、開催会場がこれまでの役場での開催とさせていただきますが、過去は東側駐車場でございましたが、今回は西側駐車場で開催をさせていただきたいと思い、準備をさせていただいているところでございます。また、当日につきましては、学園のグラウンドを関係者の方の駐車場という形で、少し利用させていただきたいという計画もさせていただいています。併せて、お願いをさせていただきたいと思います。総務部からは以上となります。

<議長（村長）>

他の部長さんはよろしいですか。

<開発部長>

昨年もお報告をしましたが、飛島学園3年生が、野菜を栽培していますが、産直で販売をさせていただきました。12月の8日、9日の2日間に渡りまして、8日は3年A組の子たち20名で、売上げが1万2千円程でした。9日は、3年B組の子たち20名で、1万2千円程で、概ね同じぐらいの売上げがありました。2日間で3年生の売上げの総額が2万5,550円で、全て社会福祉協議会に寄附されたということをご報告させていただきます。このことについては、12月10日に中日新聞に掲載されました。9日には、中日新聞に取材いただきまして、活動のご報告をしましたことをご報告させていただきます。

<議長（村長）>

それでは、事務局より連絡報告事項をお願いします。

（2）その他

- ・地域部活動検討委員会について
- ・コミュニティスクール検討委員会について

<事務局（教育部長兼教育課長）>

教育委員会としては、令和5年度に2つの委員会を立ち上げる予定をしております。まず1つ目ですが、地域部活動検討委員会です。こちらは、段階的となりますが、まず休日の部分となります。子どもの体力づくり、居場所づくりを含めて部活動の地域移行について、検討をしていくものでございます。委員としては、スポーツ協会、スポーツ少年団の代表者、有識者等の意見を伺いながら進めていきたいと考えています。新年度の5月中旬頃をスタートとして、年3回程の委員会の開催の予定をしております。子どもや保護者へのアンケートも参考としながら、令和6年度から1つでも試行として実施していけるように進めていきたいと考えております。

次に2つ目となりますが、コミュニティスクール検討委員会の立ち上げを予定しています。こちらは、地域に開かれた学校を目指していくことを目的とした仕組みや、組織づくりを進めていくための検討を行っていきます。委員としては、学校評議員やスクールガー

ド、学校に入っている読み聞かせのボランティア等、ペアレンツ等のボランティア組織の代表者の方を予定しています。令和6年度からは、学校運営協議会を持つコミュニティスクールの設立を目指して進めていきたいと考えています。

<議長（村長）>

本日予定された案件は以上です。
追加の連絡などはありませんか。

<特になし>

<村長>

他にないようですので、これで本日の総合教育会議を終了といたします。
ご協力ありがとうございました。

<事務局（教育部長兼教育課長）>

進行ありがとうございました。
これをもちまして、令和4年度飛島村総合教育会議を閉会いたします。

閉 会